

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900685		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと船橋小室		
所在地	千葉県船橋市小室町5077		
自己評価作成日	2023年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2023年3月31日(文書評価)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で落ち着きと温かみのある施設内と、いつも明るく清潔感のある空間を保てるよう努めている。グループホームの理念・目的でもある『暮らしの継続』を主眼におき、利用者様が自分らしく、健康で安心して過ごしていただけるように、日々利用者様の思いに寄り添い、笑みを絶やさぬように、職員一同心掛けています。いつまでも自分らしく穏やかな日常生活をお過ごしいただけるように、サービスのご提供をさせていただいております。入居者が一堂に会するリビングでは、談笑したり、テレビを見たりカラオケやレクリエーションをしたり食事をする場として使用しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎えるホームで、北総鉄道小室駅から徒歩5分の住宅地の中にある。施設長は就任後2年が経過するが、職員や利用者とのコミュニケーションを特に大切にしており、職員の定着率も良い。日頃から入居者の笑顔を絶やさぬ支援に努め、アンケートでは「家族の話をよく聞いてくれる」「柔軟な対応」「気軽に訪問しやすい」等と、ほぼ全員から高い評価を受け、サービスに対する保護者の満足度は高い。コロナ感染防止策を徹底し、利用者の感染は防止できた。5類以降は外出支援の範囲を広め併せて地域との交流を徐々に再開し、運営推進会議、自治会主催さわやかサロン、ボランティアの来訪も増えてきた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念 株式会社めいとケア</b>					
1	(1)	グループホームめいと船橋小室 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を明確にし、職員全員が理解し実践している。	基本理念をホーム玄関に掲示し、会議や介護の際に職員と話し合っている。理念の思いが支援の中で実践されているか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域との付き合い 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事に積極的に参加し、地域とのつながりを強化している。	自治会に加入している。5類以降から徐々に地域との交流を拡大している。自治会主催のさわやかサロンに参加、ボランティアの歌や三線演奏などもある。運営推進に3人の民生委員の来訪もあるなど、地域との交流が再開された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症支援のノウハウを地域に還元し、地域住民の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行い事業所の状況、運営推進会議での意見交換を通じて、サービスの向上に取り組んでいる。	包括支援センター及び3人の民生委員とホーム関係者で2ヶ月に1回、年間6回集団方式で開催している。利用者の現況と行事や活動内容、ホームでの業務担当の変更(配置換え)等を報告している。適宜助言や情報を頂き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との継続的な連携を通じて、サービスの充実を図っている。	市の窓口は高齢者福祉課と生活支援課の2カ所である。市の集団指導へ参加したり、不明点があれば包括支援センターや市の窓口にご相談するなどして解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をせず、安全なケアを実践している。3ヶ月に1度の割合で、具体的事例を基に研修会を実施している。	身体拘束適正化のための指針を定め、適正化委員会はホーム関係者が出席し、年間4回開催している。現状は該当者なしを確認し、拘束者ゼロの継続で、利用者の安全な生活を語ることを再確認している。社内年間計画書で、身体拘束・虐待防止の研修会を8月に実施した。	令和6年度から高齢者虐待防止推進が義務化されたので、その徹底に取り組んで頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて、職員が法令を遵守し注意を払っています。研修会などへの積極的な参加を促し、職員に理解していただき防止に努めている。		

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を理解し、利用者の権利を守っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約の説明と納得を得るために、丁寧な対応をしています。不安がないようにし納得及び理解された上での契約となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を運営に反映させています。ご家族様との連絡は随時行っておりご意見やご要望についてはその都度反映できるようにしている。	利用者へは毎日必ず話しかけるように指導している。ご家族への手紙や毎月のイベント写真などを家族毎に毎月送付し、電話で説明し話を伺っている。家族の訪問は制限なしだが、アンケートでは3か月に1回以上・1月に1回以上と訪問頻度は高くはない。訪問時には施設長が話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を尊重し、運営に活かしている。毎日の申し送時や月に1度のスタッフミーティングを行ってコミュニケーションを円滑にし、運営に必要な事については出来る限り早く反映できるように努めている。	施設長は就任以降、職員とのコミュニケーションづくりに努めており、ホームは何でも話し合える雰囲気がある。職員からの要望や提案を取り入れ、介護の改善に反映している。アンケートでも「職員は生き生きと働いている」などの評価を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整備し、職員の働きやすさを追求している。各職員と話し合う時間を持ち、少しでも働きやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の社内研修の機会を設け、職員のスキルアップと成長を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護施設と定期的に連携を取り合い、他施設の良い取り組みを学びながら、自施設のサービスの質を向上させることができている。		

自己	外部	項目	2023年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に入居する際、初回面談で十分な時間をかけて本人の要望や不安を聞き出し、それに真摯に向き合い、また、入居後も本人の気持ちや生活に対する意見を積極的に受け止め、安心感を提供する関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討している家族とは、施設見学や面談を通じてコミュニケーションを図り、家族の懸念や要望を真摯に受け止めます。その上で、施設の方針や提供するサービスについて詳細に説明し、家族との信頼関係を築くよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期には、利用者や家族とのコミュニケーションを重視し、その時点で最も必要とされる支援を見極めます。必要に応じて医療機関や地域のサービスと連携し、包括的な支援を提供するよう努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者が日常生活の中でできる事ややりたい事等を見極め残存能力を最大限に活用してやりがいのある生活が出来るよう支援していきます。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援する立場においても、本人と家族の絆を尊重し、両者との信頼関係を築きながら、本人の支援に全力で取り組んでいます。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた関係が続くよう、職員は積極的に関係をサポートし、本人が馴染みの場所や人々とのつながりを保つよう努めています。	面会は予約制で、来訪者には引き続き感染予防対策をお願いしている。来訪者は少なく施設職員が馴染みの人になっている。ボランティアの来訪や自治会主催の「さわやかサロン」への参加で楽しいひと時を過ごしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の交流を促進し、孤立を防ぐために様々な活動やイベントを企画し、利用者同士が関わり合い、助け合えるような環境を作り出しています。			

自己	外部	項目	2023年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、定期的に連絡を取り合い、本人や家族の状況をフォローアップし、必要な場合は相談や支援を提供しています。		/	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望や意向を理解し、その生活スタイルに合わせた支援を提供しています。困難な場合には、入居者の意向を最優先に考えた対応を検討しています。		入居時、利用者や家族などから「暮らし方の希望」を聞いている。毎日、職員は利用者積極的に話しかけており、表情や仕草から『思い』や『意向』を汲み取り全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者がそれぞれの生い立ちや日常生活、環境、過去のサービス利用などを詳細に把握し、個々の状況に合わせたケアプランを立案しています。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれの日々の生活リズムや健康状態、身体的・精神的な能力などを詳しく把握し、最適な支援を提供するための基礎情報を整理しています。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族と連携し、ニーズや希望を理解し、それに基づいて介護計画を策定しています。そして、定期的にチームでモニタリングし、計画が適切に機能しているかどうかを確認しています。		モニタリングを重視する為、利用者への支援が適切か、個人記録や職員の意見を聞き評価している。課題があれば必要時、利用者と家族、かかりつけ医の意見を参考に、職員全員で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動やケアの結果を個別の記録に詳細に記入し、職員間で共有しています。この情報を活用して、実践や介護計画を定期的に見直しています。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や必要性に応じて、柔軟で多機能な支援やサービスを提供しています。既存のサービスにとらわれず、ニーズに応じた支援を提供することで、より効果的に支援を行っています。		/	

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域にある公共施設で行っているイベント参加して、入居者本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療受診を支援しています。	入居時、利用者や家族から同意を得て、24時間対応型医療機関に「かかりつけ医」を変更している。訪問診療や歯科医師、薬剤師、看護師も訪問している。診療情報は全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療所と連携を図り看護職員が必要な指示や助言を行い、夜間はオンコールにて対応をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員やワーカーと面会や情報収集を行い入退院に向けての情報共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、入居前や入居契約時及び必要に応じて当施設での対応を詳細に説明している	利用者が重度化した場合は、利用者や家族、かかりつけ医などと相談し、医療行為が必要でなければ、施設で見取りを行っている。利用者との関連職員がチームを組み対応し、見取り後の心のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応や応急手当、AED研修などを行い対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っているが、今後地域との協力体制を築けるよう努力する	火災対策は、年2回消火器取扱いの自主訓練や避難訓練を行った。地震対策は、避難訓練を独自に実施し、地域の協力体制は得られている。夜間想定避難も職員間で共有されている。	

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーの書面を掲示し、また施設内研修にて個人情報保護について学ぶ機会を作っている。	日常的に穏やかな口調で、ゆっくりと話しかけ利用者の気持ちに寄り添い支援している。三枚引戸のトイレには、マナーとして『ノックをしましょう』と貼り紙があり、各部屋を訪ねる時も同様にノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選択頂くケースをもち、意思や希望を確認して自己決定をしていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっているが、利用者の意思やペースに沿って、スケジュール通りに過ごすかどうかはご本人に決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容を利用しているが、コロナ禍により定期的に行えないときがあった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを利用者で行い、スタッフと一緒に食事をしている。	施設ではご飯や汁物を作り、副菜は毎食フリーズ食品を利用している。利用者に合わせ、刻み食やミキサー食に調整し『全員の完食』を目指している。毎日、味が変わる『おやつのでゼリー』を利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別記録に記入している。嚥下状態や体調に合わせ食事形態を刻み食やミキサー食にして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。一部介助及び全介助にて仕上げを行っている。その他口腔用スポンジや口腔用ウェットティッシュを使用し清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導の声かけを行い排泄の自立を支援している。	職員の声掛け誘導で、紙パンツ等の利用者もトイレ排泄を目標に努力している。夜間はオムツ利用者もいるが、職員の見守りで行動探知センサーは使用せず排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、その日の体調に合わせて適度な運動を習慣化するようこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や様子を見ながら声掛けを行い、本人の希望や変更を行っている。	週2回の入浴が基本だが、季節や利用者の体調に合わせ、必要時、入浴やシャワー浴で対応している。入浴を拒む人には、担当職員を交代するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動を取り入れ、生活リズムを整え夜間の安眠に繋げている。特に昼夜逆転しないよう注力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、家事等ご本人が出来ることをお願いして行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により施設周辺や近くの公園などへ散歩を行っている。	近くの公園に行ったり、短時間コースの散歩に出かけている。外気浴を兼ねて、花を育て、育てた野菜の収穫も体験している。施設車で、自治体主催の「さわやかサロン」に出かけている。	

自己	外部	項目	2023年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理をしておりますご要望や必要なものがある時には一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分が愛用していた物を使ってもらったり、施設内も柔らかな調光にしている。	朝は食堂兼居間でラジオ体操をし、昼食後には、居間から続く長廊下で歩行練習をするのが日課である。季節の掲示物などが飾られたリビングは、利用者が集まり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自由に好きな時に来られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご見学時やご入居前にご本人が使っていた物を持って来て頂き落ち着く慣れ親しむ場所として頂いている。	愛着のあるものを持ち込むことができ、入居後も利用者が『自分らしく穏やかな日常生活が続けられる居室』を整えている。居室の洗面台は乾燥予防の濡れタオル置き場にも活用している。利用者と職員が一緒に整理整頓や掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用廊下やトイレなどには手すりを設置し、ゆとりのあるスペースの確保も行っている。		